

2020年1月号をお届けします。今年の冬はどんな寒さになるのでしょうか。東京オリンピックまであと半年余りですが、あっという間に暑い夏がきそうです。今年も皆様に良い年でありますように。

さて、本号の特集は「多胎児を診る」です。家族にとって、子どもを一度に2人以上授かることはうれしい反面、不安も多々あります。出生前に小児科医が相談を受けることもまれではないでしょう。多胎児を診療することも日常茶飯事です。小児科医が知っておくべき多胎の問題についての特集です。

「多胎児の妊娠・分娩の問題」では、多胎児妊娠の母体の問題、分娩管理や、児の合併症についての概説です。「双胎間輸血症候群に対する胎児治療」では、胎盤へのレーザー手術について述べていただきました。「双胎間輸血症候群における生後の問題と管理」では、双胎間輸血症候群で生まれた児の病態と治療、管理について、また神経学的予後についてまとめていただきました。「多胎児の発達」では、双胎児の発達予後について概説いただきました。「多胎児の育児における悩み」では、多胎児の育児の大変さ、支援の必要性を概説いただきました。

特集以外に、「小児・AYA世代の腫瘍に対する陽子線治療診療ガイドライン」「血友病の現状と今後の治療選択」の総説を執筆いただきました。

また、「診療」では「小児における発熱性好中球減少症への対応」の論文をいただきました。「オピニオン」と「提言」では、「三次喫煙から乳幼児を守る」。「パロキサビル(ゾフルーザ®)は季節性インフルエンザ治療に使うべきではない」というご意見をいただきました。日常診療の参考にしていただければ幸いです。

目で見える小児科では「発熱・右下腹部痛を主訴とした盲腸憩室炎の8歳男児例」、また「症例」では「黄色ブドウ球菌による多発性皮下膿瘍の1例」「犬咬傷治療後に発症した *Clostridium difficile* 関連偽膜性腸炎の14歳健常児」の報告をいただきました。

「最近の外国業績より」では、日本医科大学小児科教室から循環器に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、盛りだくさんかつ日常診療に役立つ内容になっています。ご一読下さいますようお願いいたします。

(中西 敏雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第61巻 第1号 1月号
2020年1月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,700円＋税）
年間購読料金
定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。